【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 証券取引法第24条第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成19年 3 月30日

【事業年度】 第123期(自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)

【会社名】 大和重工株式会社

【英訳名】Daiwa Heavy Industry Co.,Ltd.【代表者の役職氏名】代表取締役社長田中 保昭

【本店の所在の場所】 広島市安佐北区可部一丁目21番23号

【電話番号】 (082)814-2101(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 経営企画部 経理グループ部長 楠 博文

【最寄りの連絡場所】 広島市安佐北区可部一丁目21番23号

【電話番号】 (082)814-2101(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 経営企画部 経理グループ部長 楠 博文

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第119期	第120期	第121期	第122期	第123期
決算年月	平成14年12月	平成15年12月	平成16年12月	平成17年12月	平成18年12月
売上高 (千円)	5,402,839	5,383,575	5,301,710	5,670,720	6,191,308
経常利益(千円)	60,320	94,238	192,597	312,093	499,861
当期純損益 (千円)	199,548	78,917	180,540	278,916	298,054
持分法を適用した場合の投資 損益(千円)	-	-	-	-	-
資本金(千円)	504,000	651,000	651,000	651,000	651,000
発行済株式総数 (千株)	10,080	13,580	13,580	13,580	13,580
純資産額 (千円)	1,191,553	1,636,238	1,948,178	2,768,925	2,893,332
総資産額 (千円)	5,141,044	5,497,761	5,499,064	6,681,164	6,877,297
1株当たり純資産額(円)	118.29	120.59	143.61	204.14	213.37
1株当たり配当額(円) (うち1株当たり中間配当額)	2.00	2.00	2.50	3.00	5.00 (-)
1株当たり当期純損益(円)	19.81	6.43	13.31	20.56	21.98
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	23.17	29.76	35.43	41.44	42.07
自己資本利益率(%)	-	5.58	10.07	11.83	10.53
株価収益率 (倍)	-	30.33	14.12	17.22	13.06
配当性向(%)	-	31.10	18.78	14.59	22.75
営業活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	192,931	17,575	706,243	411,797	655,260
投資活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	144,386	379,972	32,440	136,034	135,067
財務活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	83,983	341,204	575,511	106,561	157,977
現金及び現金同等物の期末残 高(千円)	114,692	93,500	191,792	360,994	723,210
従業員数(名) (外、平均臨時雇用者数)	220 (27)	205 (33)	203 (34)	196 (38)	189 (39)

- (注)1.売上高には消費税等は含まれておりません。
 - 2. 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 - 3. 当社は、重要な関係会社がないので、「持分法を適用した場合の投資損益」について記載しておりません。
 - 4.潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。
 - 5.第120期から、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期 純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。
 - 6.第123期より 「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」 (企業会計基準第5号 平成17年12月9日) 及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」 (企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日) を適用しております。

2 【沿革】

大正9年3月 瀬良嘉一が事業拡張のため、従来の個人経営を改めて広島市広瀬町に瀬良商工株式会社を設立

大正15年6月 本店を現在地に移転し、取締役社長瀬良嘉一退任、田中保就任

大正15年11月 住野鋳造所を吸収合併

昭和14年11月 本社工場に機械工場を新設し、大和(ヤマト)重工株式会社に商号変更

昭和19年7月 株式会社観音鋳造所を吸収合併し、商号を大和(ヤマト)重工業株式会社に変更

昭和25年8月 大和(ダイワ)商事株式会社を吸収合併

昭和26年10月 大和 (ダイワ) 重工株式会社に商号を変更

昭和28年6月 本社工場にホーロー加工設備を新設

昭和29年3月 観音工場を閉鎖し、本社工場に吸収

昭和34年3月 広島営業所を新設

昭和36年11月 株式を東京証券取引所市場第二部及び広島証券取引所に上場

昭和37年10月 住宅部門拡販による生産体制強化のため吉田工場新設

昭和38年1月 有明製鉄株式会社熊本製造所の砂鉄熔銑を直鋳して鋳鉄製品を製造するため、熊本工場新設

昭和39年7月 大阪出張所を、大阪営業所に昇格

昭和41年3月 有明製鉄株式会社熊本製造所の閉鎖に伴い、当社熊本工場を閉鎖撤収

昭和42年8月 東京出張所を、東京営業所に昇格

昭和43年7月 鋳鉄製ホーロー浴槽の需要増加に伴い、ホーロー加工設備の増設、配送機能の充実を兼ねて東京工場新設

昭和47年1月 福岡及び名古屋出張所をそれぞれ営業所に昇格

昭和47年10月 鋳鉄製ホーロー浴槽の一貫生産体制確立のため、本社工場のホーロー設備を吉田工場に移設

昭和56年11月 仙台出張所を、仙台営業所に昇格

昭和56年11月 東京工場を閉鎖し、吉田工場に吸収

昭和60年3月 高松営業所を新設

平成7年5月 仙台営業所を閉鎖

3【事業の内容】

当グループは、当社及び子会社 1 社で構成され、当社は産業機械関連機器部門と住宅関連機器部門の 2 部門で事業活動を行っております。

産業機械関連機器部門

工作機械鋳物部品、周辺機器、産業機械鋳物部品及びディーゼルエンジン鋳物部品の製造・加工・販売などを行っております。

住宅関連機器部門

鋳物ホーロー浴槽、マンホール鉄ふた、景観製品、その他の日用品鋳物、木製建具などの製造販売を行っております。

子会社は、浴室用品の販売を行っておりますが、連結財務諸表等規則第5条第2項により連結の範囲から除いても 当企業集団の財政状態及び経営成績に関して合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいので、連結財務諸表は作成しておりません。

非連結子会社の事業内容は次のとおりであります。

(株)バスストップ 浴室用品の販売

4【関係会社の状況】

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高等からみて、当企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合を示すと下記のとおりであります。

記

下記算式における資産及び売上高は、会社間項目の消去後の数値であります。

資産基準 = 0.1%

売上高基準 = 0.0%

利益基準 = 0.0%

利益剰余金基準 = 0.5%

したがって、関係会社の状況については記載しておりません。

5【従業員の状況】

(1)提出会社の状況

平成18年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与 (千円)	
189 (39)	37.05	16.0	5,049	

- (注)1.従業員数は、就業人員であります。
 - 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 - 3.従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 労働組合の状況

当社における労働組合は、大和重工労働組合と称し、組合員数 166人で、上部団体のJAMに加盟しておりま す。

なお、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当事業年度におけるわが国経済は、緩やかな回復基調を持続しております。

企業部門は、設備投資が企業収益の改善持続により堅調に推移し、また、輸出が海外経済の好調に支えられ底堅く 推移して、景気を牽引いたしました。

家計部門は、個人消費が雇用・所得環境の改善基調持続により総じて底堅く推移しましたが力強さには欠けた展開となりました。

こうした情勢のもと、産業機械関連機器部門においては、工作機械業界の主要各社の受注額は建設機械・航空機向けに拡大を続けております。

また、造船業界も世界経済の好調を背景に新造船需要は旺盛で、堅調な受注を続け、依然として高い水準の手持ち工事量を確保しております。

住宅関連機器部門においては、新設住宅着工は堅調に推移いたしましたが、住宅設備機器市場は受注競争が激化しており、公共投資は抑制が続くなど依然として厳しい状況が続きました。

このような状況のなかで、当社は、売上の増大、収益力の強化に取り組んでまいりました。受注・販売面では新規開拓に努めました。生産面では、原材料価格の高騰を補うため、操業度の向上、生産の合理化を徹底し収益性の確保に努めてまいりました。

この結果、当事業年度の業績は、売上高61億91百万円(前年同期比9.2%増)、営業利益4億16百万円(前年同期 比72.1%増)、経常利益4億99百万円(前年同期比60.2%増)、当期純利益2億98百万円(前年同期比6.9%増)とな りました。

部門別の概況は以下のとおりであります。

〔産業機械関連機器部門〕

産業機械関連機器部門では、工作機械、造船向けの受注活動を積極的に展開しました。

生産面においては原材料価格の高騰は一服いたしましたが、価格の高止まりという厳しい環境が続いたなか、50トンクレーンの増設や中子乾燥炉の新設を行い納期対応に注力するとともに、設備保全の徹底などを実施し、歩留まり率の向上、生産の合理化により、収益性の向上に取り組んでまいりました。

工作機械鋳物部品(ベッド、テーブル、コラム、クロスレール、及び周辺機器のパレットチェンジャーなど)の受注高は、工作機械メーカーが高水準の受注を続けていることを背景に増加し、27億62百万円(前年同期比24.9%増)となりました。

ディーゼルエンジン鋳物部品の受注高は、部品の大型化による納期面、生産効率面を重視した取り組みを行ったこともあり、8億91百万円(前年同期比4.6%減)とやや減少しましたが、造船メーカーの高水準の受注を背景に高い水準が続いています。

産業機械鋳物部品の受注高は、粉砕機向けを主体に増加し、1億32百万円(前年同期比5.1%増)となりました。この結果、当部門の受注高は、37億86百万円(前年同期比15.7%増)、売上高は35億47百万円(前年同期比14.3%増)、受注残高は14億85百万円(前年同期比19.8%増)となりました。

〔住宅関連機器部門〕

住宅関連機器部門では、売上の拡大と生産性の向上に集中して取り組みました。

販売面においては積極的な営業活動を展開し、ハウスメーカーや地場工務店などの新規ルート開拓、OEMの拡 販強化などを行うとともに、新機種の開発を行いホーロー浴槽販売増加に努めました。

生産面においては産業機械関連機器部門と同様に原材料価格・原油価格の高止まりという環境が続いたなか、昨年に続き鋳物ホーロー浴槽生産工程における釉薬回収装置2号機の増設を行い、稼動率・歩留まり率向上、生産合理化を推進してまいりました。

当社の主力製品である鋳物ホーロー浴槽は、OEM向けを中心に堅調に推移いたしました。

マンホール鉄ふたは公共部門の停滞により市場が縮小しており、引続き大幅な減少となりました。

仕入商品は集合住宅向けの木製建具、洗面化粧台などが伸び悩んだものの浴室ユニット等が増加し、微増となりました。

この結果、当部門の売上高は26億43百万円(前年同期比3.0%増)と若干の増加となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ3億62百万円 (100.3%)増加し7億23百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、6億55百万円(前年同期は4億11百万円の資金獲得)となりました。これは主に税引前当期純利益5億4百万円、減価償却費1億59百万円、売上債権87百万円の減少、仕入債務95百万円の増加によって資金が得られたことによるものであります。また、前年同期と比べ資金獲得が増加した主な要因は、税引前当期純利益1億95百万円、減価償却費28百万円、仕入債務が1億71百万円増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1億35百万円(前年同期は1億36百万円の資金使用)となりました。これは主に、投資不動産の賃貸による収入1億1百万円に対して、有形固定資産の取得による支出2億22百万円を行ったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1億57百万円(前年同期は1億6百万円の資金使用)となりました。これは主に、短期借入金の純減少1億50百万円、配当金の支払額41百万円に対して、長期借入金の純増加35百万円の資金獲得に止めたことよるものであります。また、前年同期と比べ資金使用が増加した主な要因は、短期借入金の返済によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

部門	金額 (千円)	前年同期比(%)
産業機械関連機器	2,508,065	9.8
住宅関連機器		
鋳物	469,509	3.4
ホーロー加工	936,475	11.0
合計	3,914,049	9.3

- (注)1.金額は、売価によっております。
 - 2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

区分	受注高 (千円)	前年同期比(%)	受注残高 (千円)	前年同期比(%)
産業機械関連機器	3,786,275	15.7	1,485,714	19.8

- (注) 1.住宅関連機器は見込生産のため記載しておりません。
 - 2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

部門	製品 (千円)	商品(千円)	商品(千円) 合計 前年同期	
産業機械関連機器	3,547,673	-	3,547,673	14.3
住宅関連機器	1,548,009	1,095,625	2,643,634	3.0
合計	5,095,682	1,095,625	6,191,308	9.2

- (注)1.産業機械関連機器には、産業機械鋳物、機械加工、組立品を含んでおります。
 - 2.前事業年度及び当事業年度の主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	(自 平成17	美年度 年 1 月 1 日 年12月31日)	当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)		
	金額 (千円)	割合(%)	金額 (千円)	割合(%)	
オークマ株式会社	1,778,665	1,778,665 31.4		34.4	
タカラスタンダード 株式会社	895,721	15.8	1,015,808	16.4	

3.金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

生産工程・管理の徹底、強化

顧客対応力の強化と製品競争力強化のため、引き続き生産革新運動「DASH21」へ継続的に取り組んでおり、生産性の改善によるトータルコスト削減と短納期に対応できる効率的、有効的な生産体制の確立を図り、収益性の更なる向上を進めてまいります。

自社製品の販売拡大

自社主力製品である鋳物ホーロー浴槽の高品質イメージをベースに拡販を推進し、顧客から信頼され選ばれる会社となります。このため原価管理・品質管理にこれまで以上に取り組み、製品競争力をアップさせ売上拡大を図り、工場稼働率の向上により、一段の収益力強化の努力を行ってまいります。

人材の育成

これまで培った技能の伝承はもとより更に高度化させ、「ダイワブランド」として顧客から厚い信頼を寄せられる 高い品質の製品を供給する企業として、人材の育成に取り組み、現場力の向上を図ってまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は、以下のものがあります。

なお、文中における将来に関する事項については、当事業年度末現在において判断したものであります。

市場環境

当社は、工作機械鋳物部品、ディーゼルエンジン鋳物部品等の製造、加工、販売及び鋳物ホーロー浴槽等の住宅関連機器の製造、販売を行っております。従いまして、設備投資、建設投資等の動向に急激な変化が生じた場合には、当社の経営成績及び財政状態が影響を受ける可能性があります。

原材料価格の変動

当社は、原料として銑鉄、鋼屑、非鉄金属、コークス等を使用しております。これらの原材料等の価格変動に対しましては、生産効率化等で吸収を図っておりますが、市況が高騰し、予想を上回る原材料価格の上昇が起こった場合には、当社の経営成績及び財政状態が影響を受ける可能性があります。

有価証券の価格変動

当社は、金融機関、販売、仕入に係る取引先その他の会社の株式を保有しております。株価の変動が起こった場合には、当社の経営成績及び財政状態が影響を受ける可能性があります。

災害

当社は、災害を想定した事業継続に関する基本計画を策定しておりますが、想定を上回る災害が発生した場合には、当社の経営成績及び財政状態が影響を受ける可能性があります。

減損会計

当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」を当事業年度から適用しております。今後、不動産価格の下落や事業環境の変化などによっては、新たに減損損失計上の要件に該当する物件が発生し、当社の経営成績及び財政状態が影響を受ける可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当する事項はありません。

6【研究開発活動】

当期の研究開発活動につきましては、住宅機器統括本部開発課において事業戦略上必要とする製品の改良に取組みました。

7 【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 当事業年度の財政状態の分析

当事業年度末における資産合計は、前事業年度と比べ1億96百万円増加し、68億77百万円となりました。流動資産は、売掛金、製品在庫等が減少したものの、現金及び預金、受取手形、仕掛品などが増加したことにより、前事業年度と比べ2億80百万円増加し32億61百万円となりました。固定資産は、機械及び装置が増加したものの、投資有価証券が株式相場の関係から減少したことなどにより、前事業年度と比べ84百万円減少し、36億15百万円となりました。

当事業年度末における負債合計は、前事業年度と比べ71百万円増加し39億83百万円となりました。流動負債は、支払債務、未払法人税等、設備等支払手形などが増加しましたが、短期借入金などが減少し、前事業年度と比べ1億円増加し29億46百万円となりました。固定負債は、長期借入金が増加したものの、繰延税金負債が減少したことにより、前事業年度と比べ29百万円減少し10億37百万円となりました。

当事業年度末における純資産は、前事業年度と比べ1億24百万円増加し、28億93百万円となりました。これは利益 剰余金が増加したことによるものです。

(2) 当事業年度の経営成績の分析

売上高

当事業年度における売上高は、61億91百万円(前年同期比9.2%増)となり、前事業年度に比べ5億20百万円の増収となりました。産業機械関連機器部門の売上高は、工作機械業界向けの鋳物部品の販売増加を主因に4億43百万円増収の35億47百万円(前年同期比14.3%増)となりました。住宅関連機器部門の売上高は、マンホール鉄ふたは大幅な減少となりましたが、鋳物ホーロー浴槽は堅調に推移し、仕入商品の集合住宅向けの木製建具、洗面化粧台などは伸び悩んだものの、浴室ユニット等が増加し、77百万円増収の26億43百万円(前年同期比3.0%増)となりました。

売上総利益

当事業年度における売上原価につきましては、原材料価格の高止まり状態が続くなかコスト削減に努めた結果、49億11百万円(前年同期比6.6%増)となり、前事業年度に比べ3億6百万円増加いたしました。

当事業年度における売上総利益は、12億79百万円(前年同期比20.2%増)となり、2億15百万円の増益となりました。売上高総利益率は前年同期を1.9ポイント上回り20.7%となりました。

営業利益

当事業年度における販売費及び一般管理費につきましては、人件費が増加し8億63百万円(前年同期比5.0%増) となり、前事業年度に比べ40百万円の増加となりました。

この結果、当事業年度における営業利益は、4億16百万円(前年同期比72.1%増)となり、前事業年度に比べ1億74百万円の増益となりました。売上高営業利益率は前年同期を2.4ポイント上回り6.7%となりました。

経営利益

当事業年度における営業外収益は、受取配当金の増加により1億36百万円(前年同期比6.0%増)となり、一方営業外費用は52百万円(前年同期比9.8%減)となりました。

この結果、当事業年度における経常利益は、4億99百万円(前年同期比60.2%増)となり、前事業年度に比べ1億87百万円の増益となりました。売上高経常利益率は、前年同期を2.6ポイント上回り8.1%となりました。

当期純利益

当事業年度における特別利益は19百万円(前年同期比53.0%増)、特別損失は14百万円(前年同期比6.5%減)となり、税金等費用は2億6百万円となりました。

この結果、当期純利益は2億98百万円(前年同期比6.9%増)となり、前事業年度に比べ19百万円の増益となりました。売上高当期純利益率は、前年同期を0.1ポイント下回り4.8%となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社では、加工能力増強や生産性の向上等のために、各部門において設備投資を実施いたしました。当期において 実施した設備投資の総額は、311,548千円であり、主なものは次のとおりであります。

鋳造工場50 t クレーン62,670千円造機工場P L 10 N C 化改造工事44,546千円鋳造工場中子乾燥炉改造工事43,140千円

2【主要な設備の状況】

平成18年12月31日現在

事業所名			帳簿価額(千円)						
(所在地)	業務内容	設備の内容	建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	員数 (名)	
本社工場 (広島市安佐北区)(注)1	製造・管理・営 業部門	生産及びその他 の設備	164,099	586,082	13,538 (50,223)	53,144	816,863	120	
吉田工場 (広島県安芸高田市)	製造部門	生産設備	71,181	124,089	14,059 (40,890)	31,629	240,958	53	
東京営業所 (東京都文京区)(注)2	営業部門	その他の設備	9,595	589	300,554 (301)	77	310,815	2	
名古屋営業所 (名古屋市東区)	営業部門	その他の設備	-	554	-	89	643	1	
大阪営業所 (大阪市淀川区)	営業部門	その他の設備	-	387	-	338	725	1	
広島営業所 (広島市西区)	営業部門	その他の設備	27,733	2,312	4,145 (1,500)	1,528	35,718	7	
福岡営業所 (福岡市博多区)	営業部門	その他の設備	-	2,185	-	443	2,628	4	
高松営業所 (香川県高松市)	営業部門	その他の設備	-	396	•	138	534	1	
その他(注)3 (広島市安佐北区)	-	-	153,967	-	77,064 (23,863)	224	231,255	-	

- (注)1.本社工場には、寮及び社宅を含んでおります。
 - 2. 東京営業所には、社宅を含んでおります。
 - 3. その他には、貸与中の建物及び構築物153,967千円、土地49,254千円(20,577㎡)、その他224千円を含んでおります。
 - 4. 金額には、消費税等は含まれておりません。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

事業所名		投資予	予定額	資金調達			完成後の	
(所在地)	業務内容 設備の内容	設備の内容 	総額 (千円)	既支払額 (千円)	方法	着手年月	完了予定年月	増加能力
吉田工場 (広島県安芸高田市)	製造部門	Vプロセス設備 延命工事	70,000	-	自己資金	平成19年4月	平成19年12月	-
本社工場 (広島市安佐北区)	製造部門	砂再生装置 延命工事	20,000	-	自己資金	平成19年4月	平成19年12月	-

(注)金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等 該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

- 1【株式等の状況】
 - (1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成18年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成19年3月30日)	上場証券取引所名又は 登録証券業協会名	内容
普通株式	13,580,000	13,580,000	東京証券取引所 (市場第二部)	-
計	13,580,000	13,580,000	-	-

- (2) 【新株予約権等の状況】 該当事項はありません。
- (3)【ライツプランの内容】該当事項はありません。
- (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成15年 5 月16日	3,500,000	13,580,000	147,000	651,000	147,000	154,373

(注) 有償第三者割当 発行価格84円 資本組入額42円

(5)【所有者別状況】

平成18年12月31日現在

	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株
区分 政府及び地 方公共団体 金融機関		政府及び地 全軸機関		その他の法	外国法人等		個人その他	計	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
	亚州东(茂)天)	証券会社	人	個人以外	個人	画人で配	п	(1/1/)	
株主数(人)	-	15	17	60	3	-	1,221	1,316	-
所有株式数 (単元)	-	1,779	87	6,030	27	-	5,596	13,519	61,000
所有株式数の 割合(%)	-	13.16	0.64	44.60	0.20	-	41.40	100.00	-

- (注) 1. 自己株式21,005株は、「個人その他」に21単元、「単元未満株式の状況」に5株含まれております。 なお、自己株式21,005株は、株主名簿記載上の株式数であり、平成18年12月31日現在の実保有残は、 20,005株であります。
 - 2.「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が24単元含まれております。

(6)【大株主の状況】

平成18年12月31日現在

氏名又は名称	住所	保有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
広島運輸株式会社	広島市南区西蟹屋2丁目1番4号	1,307	9.62
田中 保昭	広島市西区	1,280	9.42
オークマ株式会社	愛知県丹羽郡大口町下小口 5 丁目25番地の 1	650	4.78
株式会社広島銀行	広島市中区紙屋町1丁目3番8号	649	4.77
広島ガス株式会社	広島市南区皆実町2丁目7番1号	625	4.60
株式会社もみじ銀行	広島市中区胡町 1 番24号	620	4.56
タカラスタンダード株式会社	大阪市城東区鴫野東1丁目2番1号	600	4.41
明信産業株式会社	東京都港区麻布台1丁目1番8号	552	4.06
株式会社ユーシン	東京都港区芝大門 1 丁目 1 番30号	400	2.94
三井造船株式会社	東京都中央区築地5丁目6番4号	300	2.20
計	-	6,983	51.42

(7)【議決権の状況】 【発行済株式】

平成18年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 20,000	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 13,499,000	13,499	-
単元未満株式	普通株式 61,000	-	-
発行済株式総数	13,580,000	-	-
総株主の議決権	-	13,499	-

⁽注)「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が24,000株(議決権 24 個)含まれております。

平成18年12月31日現在

所有者の氏名又 は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 大和重工株式会社	広島市安佐北区可 部一丁目21番23号	20,000	-	20,000	0.1
計	-	20,000	-	20,000	0.1

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000 株(議決権 1個)あります。

なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。

(8) 【ストックオプション制度の内容】 該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

- (1) 【定時総会決議による取得の状況】 該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による買受けの状況】 該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

旧商法第221条第6項及び会社法第192条第1項に基づく単元未満株式の買取請求による取得

区分	株式数(株)	価額の総額 (円)
株主総会(-年-月-日)での決議状況		
(取得期間-年-月-日~-年-月-日)	_	_
当事業年度前における取得自己株式	_	_
当事業年度における取得自己株式	3, 445	1, 196, 245
残存授権株式の総数及び価額の総額	_	_
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	_	_
当期間における取得自己株式	100	30,000
提出日現在の未行使割合 (%)	_	_

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

	= 7	当事業年度	当期間		
区分	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)	
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	_	_	_	_	
消却の処分を行った取得自己株式	_	_	_	_	
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行					
った取得自己株式	_	_	_	_	
その他	_	_	_	_	
保有自己株式数	20, 005	_	20, 105	_	

3【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する継続的な利益還元を重要課題のひとつと考えており、安定的な配当に配慮し、経営成績に応じて行うことを基本としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期末の配当金につきましては2円増配し、1株当たり5円とし、ご支援を賜った株主の皆様への利益還元といたしました。この結果、当期の配当性向は22.7%となりました。

内部留保金は、財務体質の強化及び事業活動の強化のための設備投資の資金として活用し、中長期的な業績の向上につながるものとしてまいります。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めておりますが、当事業年度の配当は、期末配当金だけとさせていただいております。

なお、当事業年度の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	一株当たり配当額(円)
平成19年3月29日 定時株主総会決議	67	5

4【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第119期 第120期 第121期		第122期	第123期	
決算年月	平成14年12月	平成15年12月	平成16年12月	平成17年12月	平成18年12月
最高 (円)	110	440	247	375	459
最低 (円)	70	77	160	173	285

⁽注) 株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成18年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高 (円)	351	359	341	319	310	309
最低 (円)	304	311	301	300	285	286

(注) 株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歷	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長		田中 保昭	昭和20年5月16日生	昭和43年4月 株式会社広島銀行入行 昭和49年7月 当社入社 昭和52年3月 取締役就任 昭和56年8月 住宅機器営業本部営業部長 昭和58年3月 代表取締役社長就任(現) 昭和61年2月 住宅機器事業部長	平成21年3月31日	1, 280
取締役	総務部長	見門 洋旨	昭和16年1月4日生	昭和39年4月 当社入社 昭和59年6月 社長室長 平成8年11月 総務部長 平成10年3月 取締役就任(現) 平成10年4月 業務管理部総務グループ担当 平成13年4月 業務管理部長 平成17年4月 総務部長(現)	平成21年3月31日	3
取締役	産業機械統括 本部長兼造機 工場長	榎並 繁	昭和21年3月20日生	平成11年1月 当社入社 平成12年12月 産業機械営業部長 平成16年2月 産業機械統括本部長兼機械第業部長 平成16年3月 取締役就任(現) 平成17年1月 産業機械統括本部長 平成18年10月 産業機械統括本部長兼造機場長(現)	平成21年3月31日	6
取締役	経営企画部長 兼住宅機器統 括本部長兼営 業所グループ 部長	大津 雅明	昭和48年10月30日生	平成8年4月 株式会社富士銀行 (現株式会社みずほ銀行) 行 平成15年5月 当社入社 平成16年1月 経営企画グループ部長 平成17年3月 取締役就任(現) 平成17年4月 経営企画部長 平成17年12月 経営企画部長兼住宅機器統持 本部長兼営業所グループ部分 (現)	平成21年3月31日	12
取締役	経営企画部経理グループ部長	楠博文	昭和27年1月30日生	昭和49年4月 株式会社広島銀行入行 平成16年4月 当社入社 業務管理部経理グループ部分 平成17年3月 取締役就任(現) 平成17年4月 経営企画部経理グループ部分 (現)	平成21年3月31日	10
取締役	技術部長	木村 一登	昭和21年8月25日生	昭和44年4月 当社入社 平成15年7月 産業機械統括本部鋳造工場打平成17年1月 産業機械統括本部鋳造工場打		-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		柚﨑 康生	昭和14年1月2日生	昭和36年4月 当社入社 平成8年11月 労務部長 平成10年3月 監査役就任(現)	平成20年3月31日	5
監査役		向井 寛政	大正14年9月23日生	昭和22年11月 当社入社 昭和55年9月 資材部長 昭和60年3月 監査役就任(現)	平成20年3月31日	10
監査役		加藤 寬	昭和23年10月22日生	昭和49年4月 弁護士登録 昭和51年4月 事務所開設 平成16年3月 監査役就任(現)	平成20年3月31日	-
監査役		鈴木 正道	昭和20年5月19日生	平成5年3月 広島運輸㈱入社 平成5年5月 同社 取締役就任 平成7年5月 同社 専務取締役就任 平成7年5月 同社 「中務取締役就任 平成12年9月 同社 代表取締役就任(現) 平成18年3月 監査役就任(現)	平成22年3月31日	_
	計 -					

⁽注) 1. 監査役加藤寛・鈴木正道は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

^{2.} 取締役大津雅明は、代表取締役社長田中保昭の実子の配偶者であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営の健全性と効率性を高め、経営環境の変化に対し的確、迅速に対応できる経営体制の構築に加え、コンプライアンス経営によるリスク管理体制を目指し、企業価値を高めることをコーポレート・ガバナンスの基本方針に位置づけております。

- (2) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等
 - ①会社の機関の内容及び内部統制システムの状況
 - 1) 取締役会

当社の取締役は6名(定款上の定数は11名であります)であり、取締役会は月1回定例的に開催しているほか、必要に応じ随時開催もしております。

経営会議等により事前審議を実施し、重要事項に関する意思決定を迅速、的確に行うとともに、取締役の 業務執行が公正、透明、効率的に行われているかを監督しております。

2) 経営会議

経営会議は毎月開催し、取締役、監査役及び一部管理者が出席し、重要な業務執行の決定や経営の重要事項について報告、審議を行っております。

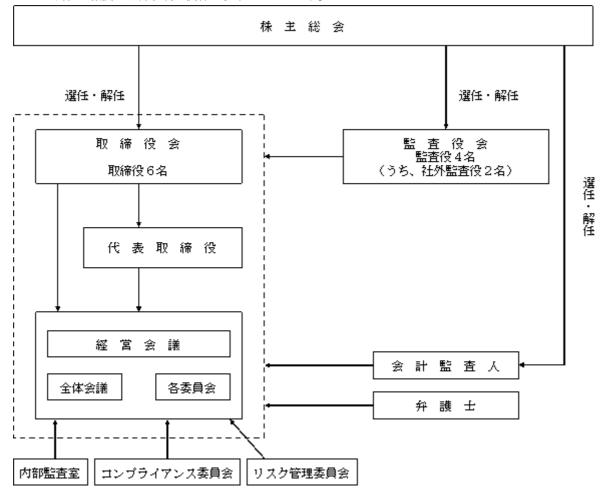
3)全体会議、各委員会

全体会議は毎月開催し、各部門の責任者以上が出席し、売上、利益計画の進捗状況、業務遂行状況の報告等を行い、経営上の共通認識の保有並びに情報の共有化を図っております。

その他、各委員会活動を毎月開催し、問題の洗い出し、改善活動を活発に行っております

②会社の機関・内部統制の関係

会社の機関・内部統制の関係は以下のとおりです。



リスク管理体制につきましては、当社の業務にかかるリスクについて適切に管理する体制整備に取り組んでおります。また、必要に応じ弁護士にアドバイスをお願いしております。

③内部監査、監査役監査、コンプライアンス体制、リスク管理体制等

1) 監査役会

当社は、監査役制度を採用しており、監査役会は、常勤監査役1名、監査役3名(内社外監査役2名)で構成されております。各監査役は取締役会及び経営会議など重要な会議に出席し、経営執行状況の的確な把握や監視を行っております。

2) 監查役監查、内部監查

監査役監査は、監査役会が監査基準に基づき、法令・定款に従い実施しています。また、監査役は、会計監査人と 定期的に意見交換の場を設け、効率的な監査体制の確立に努めています。内部監査につきましては、各種規程に基づ き監査役と内部監査室(1名)が協力して監査を担当しております。

3) コンプライアンス及びリスク管理体制

コンプライアンス体制の構築については、コンプライアンス担当役員を委員長とする「コンプライアンス委員会」を 設置し、コンプライアンス規程を整備しコンプライアンスの周知徹底を図っています。

リスク管理体制につきましては、「リスク管理委員会」を設置し、リスク管理規程を整備して当社において発生し うるリスクの発生防止に係る管理体制の整備に取り組んでおります。

④会計監査の状況

会計監査人については西日本監査法人と契約しており、監査を受けております。会社は、正しい経営情報を提供し、公正な立場での監査が実施される環境整備に努めております。

業務を執行した 公認会計士の氏名	所属監査法人
赤羽克秀	西日本監査法人
山本準治	西日本監査法人

業務監査の補助者の構成は公認会計士3名、会計士補4名です。

⑤役員報酬の内容

当期における当社の取締役及び監査役に対する役員報酬並びに監査法人に対する監査報酬は、以下のとおりです。 役員報酬

取締役に支払った報酬 53百万円 (うち、社外取締役はおりません。)

監査役に支払った報酬 19百万円 (うち、社外監査役6百万円)

なお、取締役に支払った報酬には使用人兼務取締役の使用人分は含まれていません。

⑥監査報酬の内容

公認会計士法第2条第1項に規定する業務に基づく報酬 9百万円

上記以外の業務に基づく報酬はありません。

(3)会社と会社の社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本的関係又は取引関係、資本的関係その他の利害関係の概要

当社は、社外取締役は該当ございません。

当社社外監査役 加藤寬、鈴木正道と当社との利害関係はございません。

なお、鈴木正道は広島運輸株式会社の代表取締役専務でございます。

第5【経理の状況】

1.財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成17年1月1日から平成17年12月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成18年1月1日から平成18年12月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

ただし、前事業年度(平成17年1月1日から平成17年12月31日まで)については、「財務諸表等の用語、様式及び 作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成16年1月30日内閣府令第5号)附則第2項のただし書き により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2.監査証明について

当社は、証券取引法第193条の2の規定に基づき、前事業年度(平成17年1月1日から平成17年12月31日まで)及び当事業年度(平成18年1月1日から平成18年12月31日まで)の財務諸表について西日本監査法人による監査を受けております。

3.連結財務諸表について

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高等からみて、当企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は 第1企業の概況 4関係会社の状況に 記載しております。

【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

		前事業年 (平成17年12	F度 月31日)		当事業年度 (平成18年12月31日)		
区分	注記 番号	金額(千円)		構成比 (%)	金額 (千円)	構成比(%)
(資産の部)							
流動資産							
1 . 現金及び預金		5	18,092			880,308	
2 . 受取手形	*6	4	05,271			506,396	
3 . 売掛金		1,3	59,519			1,170,598	
4 . 商品			48,700			54,565	
5 . 製品		3	77,995			350,166	
6.原材料			83,798			75,666	
7. 仕掛品			88,272			116,647	
8.貯蔵品			70,775			73,820	
9.前払費用			2,755			2,026	
10 . 未収収益			8			44	
11 . 未収入金			146			300	
12. 繰延税金資産			25,482			30,014	
13 . その他			7,713			8,175	
貸倒引当金			7,000			7,000	
流動資産合計		2,9	81,533	44.6		3,261,730	47.4
固定資産							
(1) 有形固定資産	*1						
1 . 建物		2	253,985			240,227	
2.構築物			23,952			32,382	
3.機械及び装置		5	56,382			693,119	
4.車両及び運搬具			22,025			23,479	
5 . 工具・器具及び備品			78,525			87,380	
6 . 土地		3	60,117			360,107	
7 . 建設仮勘定			10,619			145	
有形固定資産合計		1,3	05,607	19.5		1,436,842	20.9

		前事業年度 (平成17年12月31日)			当事業年度 (平成18年12月31日)		
区分	注記番号	金額 (金額 (千円)		金額(千円)		構成比 (%)
(2)無形固定資産							
1 . ソフトウェア			2,509			15,850	
2 . 施設利用権			760			647	
3 . 電話加入権			1,243			1,243	
無形固定資産合計			4,514	0.1		17,742	0.3
(3)投資その他の資産							
1.投資有価証券			2,101,441			1,879,911	
2 . 関係会社株式			15,000			15,000	
3.出資金			12			12	
4. 従業員長期貸付金			1,253			-	
5.滞留債権	*4		6,048			6,048	
6 . 前払年金費用			25,529			26,471	
7.投資不動産	*1		213,327			203,445	
8 . その他			55,106			58,302	
貸倒引当金			28,208			28,208	
投資その他の資産合計			2,389,509	35.8		2,160,982	31.4
固定資産合計			3,699,631	55.4		3,615,566	52.6
資産合計			6,681,164	100.0		6,877,297	100.0

		前事業年度 (平成17年12月31日))	当事業年度 (平成18年12月31日)		ı
区分	注記番号	金額(千円)		構成比 (%)	金額 (千円)		構成比 (%)
(負債の部)							
流動負債							
1 . 支払手形	*6		877,122			943,544	
2 . 買掛金			269,290			298,100	
3 . 短期借入金	*1		1,150,000			1,000,000	
4 . 1年内に返済する長期 借入金	*1		110,740			86,040	
5 . 未払金			107,423			101,471	
6 . 未払費用			28,811			29,776	
7 . 未払法人税等			91,844			171,941	
8 . 未払消費税等			33,035			41,665	
9 . 前受金			838			890	
10. 前受収益			3,169			3,169	
11.預り金			28,961			34,889	
12.賞与引当金			30,000			34,000	
13. 役員賞与引当金			-			11,000	
14.設備等支払手形			96,239			171,632	
15. その他			18,346			18,425	
流動負債合計			2,845,821	42.6		2,946,547	42.8
固定負債							
1 . 長期借入金	*1		397,420			457,180	
2 . 繰延税金負債			472,525			384,342	
3 . 退職給付引当金			103,638			99,124	
4.役員退職慰労引当金			35,787			39,725	
5 . 預り敷金			57,045			57,045	
固定負債合計			1,066,417	16.0		1,037,417	15.1
負債合計			3,912,239	58.6		3,983,965	57.9

			前事業年度 ;17年12月31日)		当事業年度 (平成18年12月31日)		
区分	注記番号	金額 (千円)		構成比 (%)	金額(千円)		構成比 (%)
(資本の部)							
資本金	*2		651,000	9.7		-	-
資本剰余金							
1.資本準備金		154,373			-		
資本剰余金合計			154,373	2.3		-	-
利益剰余金							
1.利益準備金		126,000			-		
2 . 任意積立金							
別途積立金		710,000			-		
3 . 当期未処分利益		383,616			-		
利益剰余金合計			1,219,616	18.2		-	-
その他有価証券評価差額 金	*5		746,695	11.2		-	-
自己株式	*3		2,760	0.0		-	-
資本合計			2,768,925	41.4		-	-
負債・資本合計			6,681,164	100.0		-	-

		i (平成	前事業年度 (平成17年12月31日)		当事業年度 (平成18年12月31日)		ı
区分	注記番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額 (千円)		構成比 (%)
(純資産の部)							
株主資本							
1.資本金			-	-		651,000	9.5
2.資本剰余金							
(1) 資本準備金		-			154,373		
資本剰余金合計			-	-		154,373	2.2
3 . 利益剰余金							
(1) 利益準備金		-			126,000		
(2) その他利益剰余金							
別途積立金		-			910,000		
繰越利益剰余金		-			440,980		
利益剰余金合計			-	-		1,476,980	21.5
4 . 自己株式			-	-		3,957	0.1
株主資本合計			-	<u> </u>		2,278,397	33.1
評価・換算差額等							
1 . その他有価証券評価差 額金			-	-		614,934	9.0
評価・換算差額等合計			-	-		614,934	9.0
純資産合計			-	-		2,893,332	42.1
負債純資産合計			-	-		6,877,297	100.0

【損益計算書】

		前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)			当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)		
区分	注記番号	金額(千円)		百分比 (%)	金額(千円)		百分比 (%)
売上高			5,670,720	100.0		6,191,308	100.0
1 . 商品売上高		1,083,799			1,095,625		
2.製品売上高		4,586,921			5,095,682		
売上原価							
1 . 製品・商品期首たな卸 高		418,693			426,696		
2 . 当期製品製造原価		3,278,085			3,479,532		
3 . 当期商品仕入高		932,587			951,012		
4 . 当期製品仕入高		403,605			459,291		
合計		5,032,971			5,316,533		
5 . 製品・商品期末たな卸 高		426,696	4,606,275	81.2	404,732	4,911,801	79.3
売上総利益			1,064,445	18.8		1,279,507	20.7
販売費及び一般管理費							
1 . 荷造運搬費		146,106			152,413		
2.役員報酬		46,866			61,350		
3.役員賞与引当金繰入額		-			11,000		
4 . 給与諸手当		333,372			354,425		
5 . 賞与引当金繰入額		8,319			10,488		
6 . 退職給付費用		21,906			22,058		
7.役員退職慰労引当金繰 入額		3,200			3,937		
8.貸倒引当金繰入額		2,000			638		
9.福利厚生費		52,469			59,727		
10.旅費交通費		34,523			32,926		
11.減価償却費		17,715			14,176		
12 . その他		156,105	822,584	14.5	140,204	863,345	14.0
営業利益			241,860	4.3		416,161	6.7

		(自 平	前事業年度 成17年1月1日 成17年12月31日		当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)		
区分	注記番号	金額(千円)		百分比(%)	金額(千円)		百分比(%)
営業外収益							
1.受取利息		47			84		
2 . 受取配当金		15,660			21,367		
3 . 受取地代家賃		106,916			107,911		
4 . 事業保険収入		1,845			1,723		
5 . その他		4,318	128,789	2.3	5,418	136,505	2.2
営業外費用							
1. 支払利息		28,491			25,061		
2. 不動産賃貸関係費		28,961			27,084		
3 . その他		1,104	58,556	1.0	659	52,805	0.8
経常利益			312,093	5.5		499,861	8.1
特別利益							
1.災害による保険金		9,440			2,889		
2 . 貸倒引当金戻入益		2,814			-		
3. 固定資産処分益	* 1	515			4,395		
4 . 土地収用による売却益		-			12,206		
5 . その他		-	12,770	0.2	50	19,541	0.3
特別損失							
1.災害による損失		4,189			2,697		
2.固定資産処分損	* 2	11,110			7,024		
3 . 貸倒引当金繰入額		450			-		
4 . 投資有価証券評価損		-	15,750	0.3	5,000	14,721	0.2
税引前当期純利益			309,113	5.4		504,680	8.2
法人税、住民税及び事 業税		85,322			210,729		
法人税等調整額		55,124	30,197	0.5	4,103	206,626	3.4
当期純利益			278,916	4.9		298,054	4.8
前期繰越利益			104,700			-	
当期未処分利益			383,616			-	

製造原価明細書

表足际间的神自 						
		前事業年度 (自 平成17年 1 月 1 E 至 平成17年12月31 E		当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)		
区分	注記番号	金額 (千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比 (%)	
材料費		1,195,748	36.2	1,321,277	37.6	
労務費		1,025,157	31.0	1,065,434	30.3	
経費		1,087,907	32.8	1,126,946	32.1	
(外注加工費)		(382,486)	(11.6)	(411,776)	(11.7)	
(減価償却費)		(113,377)	(3.4)	(144,930)	(4.1)	
当期総製造費用		3,308,812	100.0	3,513,658	100.0	
仕掛品期首たな卸高		57,595		88,272		
合計		3,366,407		3,601,931		
仕掛品期末たな卸高		88,272		116,647		
他勘定への振替	* 2	50		5,750		
当期製品製造原価		3,278,085		3,479,532		

(注)1.当社の原価計算の方法は、部門別総合原価計算法(一部個別原価計算法併用)であります。

* 2. 他勘定への振替の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度	当事業年度
固定資産(千円)	50	5,750
計(千円)	50	5,750

【利益処分計算書及び株主資本等変動計算書】

利益処分計算書

		前事業年度 株主総会承認日 (平成18年 3 月30日)		
区分	注記番号	金額(千円)	
当期未処分利益			383,616	
利益処分額				
配当金		40,690		
任意積立金				
別途積立金		200,000	240,690	
次期繰越利益			142,926	

株主資本等変動計算書

当事業年度(自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)

		株主資本							
		資本剰	制余金		利益	類余金			
	資本金	資本準備	資本準備「資本剰余」利益達		その他和	问益剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合 計
		金金		利益準備 金	別途積立 金	繰越利益剰 余金	合計		<u> </u>
平成17年12月31日 残高 (千円)	651,000	154,373	154,373	126,000	710,000	383,616	1,219,616	2,760	2,022,229
事業年度中の変動額									
剰余金の配当						40,690	40,690		40,690
当期純利益						298,054	298,054		298,054
別途積立金の積立て					200,000	200,000	-		-
自己株式の取得								1,196	1,196
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)									
事業年度中の変動額合計 (千円)	-	-	-	-	200,000	57,364	257,364	1,196	256,168
平成18年12月31日 残高 (千円)	651,000	154,373	154,373	126,000	910,000	440,980	1,476,980	3,957	2,278,397

	評価・換	算差額等	
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	純資産合計
平成17年12月31日 残高 (千円)	746,695	746,695	2,768,925
事業年度中の変動額			
剰余金の配当			40,690
当期純利益			298,054
別途積立金の積立て			-
自己株式の取得			1,196
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)	131,761	131,761	131,761
事業年度中の変動額合計 (千円)	131,761	131,761	124,406
平成18年12月31日 残高 (千円)	614,934	614,934	2,893,332

⁽注)平成18年3月の定時株主総会における利益処分項目であります。

【キャッシュ・フロー計算書】

【イヤックユ・クローロチョ】		前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期純利益		309,113	504,680
減価償却費		131,093	159,106
貸倒引当金の増減額(減少:)		365	-
賞与引当金の増減額(減少:)		8,000	4,000
役員賞与引当金の増減額(減少:)		-	11,000
退職給付引当金の増減額(減少:)		12,952	4,514
前払年金費用の増減額(増加:)		2,328	941
役員退職慰労引当金の増減額(減 少:)		4,425	3,937
受取利息及び受取配当金		15,708	21,452
支払利息		28,491	25,061
災害による保険金		9,440	2,889
災害による損失		4,189	2,697
投資有価証券評価損		-	5,000
有形固定資産処分損益		10,594	2,629
投資不動産賃貸収入		101,384	101,695
投資不動産賃貸費用		28,961	27,084
土地収用による売却益		-	12,206
売上債権の増減額(増加:)		97,948	87,796
たな卸資産の増減額(増加:)		34,858	1,323
仕入債務の増減額(減少:)		76,217	95,232
未払消費税等の増減額(減少:)		6,267	8,629
その他		50,300	3,061
小計		417,279	788,770
利息及び配当金の受取額		15,708	21,416
利息の支払額		28,595	24,354
災害による保険金収入		9,440	2,889
災害による支払額		4,189	2,697
役員保険積立金の増減額(増加:)		6,397	3,223
法人税等の支払額		4,244	127,540
営業活動によるキャッシュ・フロー		411,797	655,260

		前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)
区分	注記番号	金額 (千円)	金額(千円)
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		2,098	-
投資有価証券の取得による支出		7,783	3,843
有形固定資産の収用による収入		50,210	12,001
有形固定資産の売却による収入		-	218
有形固定資産の取得による支出		260,637	222,591
無形固定資産の取得による支出		850	6,679
投資不動産の取得による支出		-	380
投資不動産の賃貸による収入		101,384	101,695
投資不動産の賃貸に伴う支出		17,409	16,769
その他		1,149	1,280
投資活動によるキャッシュ・フロー		136,034	135,067
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入れによる収入		456,000	100,000
短期借入金の返済による支出		626,000	250,000
長期借入れによる収入		350,000	150,000
長期借入金の返済による支出		252,740	114,940
配当金の支払額		33,287	41,840
その他		533	1,196
財務活動によるキャッシュ・フロー		106,561	157,977
現金及び現金同等物の増減額		169,201	362,216
現金及び現金同等物の期首残高		191,792	360,994
現金及び現金同等物の期末残高		360,994	723,210

項目	前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)
1 . 有価証券の評価基準及び	子会社株式	子会社株式
評価方法	総平均法による原価法	左記に同じ
	その他有価証券	その他有価証券
	時価のあるもの	時価のあるもの
	決算期末前1ヵ月の市場価格の平均	決算期末前1ヵ月の市場価格の平均
	に基づく時価法(評価差額は、全部	に基づく時価法(評価差額は、全部
	資本直入法により処理し、売却原価	純資産直入法により処理し、売却原
	は移動平均法により算定)	価は移動平均法により算定)
	時価のないもの	時価のないもの
	総平均法による原価法	左記に同じ
2 . たな卸資産の評価基準及	商品、製品、仕掛品	商品、製品、仕掛品
び評価方法	総平均法による原価法であります。	左記に同じ
	原材料	原材料
	移動平均法による原価法であります。	左記に同じ
	貯蔵品	貯蔵品
	最終仕入原価法による原価法でありま	左記に同じ
	す。	
3.固定資産の減価償却の方	有形固定資産(投資不動産を含む)	有形固定資産(投資不動産を含む)
法	定率法によっております。	左記に同じ
	ただし、平成10年4月1日以降取得し	
	た建物(建物附属設備は除く)について	
	は、定額法によっております。	
	また、取得価額10万円以上20万円未満	
	の少額減価償却資産については、3年間	
	均等償却をしております。	
	なお、主な耐用年数は以下のとおりで	
	あります。	
	建物 3~65年	
	機械装置 7~12年	
	無形固定資産	無形固定資産
	定額法によっております。	左記に同じ
	ただし、ソフトウェア(自社利用分)	
	については、社内における利用可能期間	
4 10 7 1 17 min - 1 1 mm 1 1 1	(5年)に基づいております。	**************************************
4.繰延資産の処理方法	新株発行費	新株発行費
	商法施行規則第38条第1項に規定する	-
	最長期間(3年間)で均等償却しており	
	ます。	

 項目	前事業年度 (自 平成17年1月1日	当事業年度 (自 平成18年1月1日
72.1	至 平成17年12月31日)	至 平成18年12月31日)
 5 . 引当金の計上基準		
(1)貸倒引当金	 債権の貸倒れによる損失に備えるた	左記に同じ
() 53.55	め、一般債権については貸倒実績率によ	
	り、貸倒懸念債権等特定の債権について	
	は個別に回収可能性を検討し、回収不能	
	見込額を計上しております。	
(2) 賞与引当金	従業員の賞与の支給に備えるために、	左記に同じ
	翌事業年度の支給見込額のうち当期対応	
	額を見積もって計上しております。	
(3) 役員賞与引当金	-	役員に対して支給する賞与の支出に充て
		るため、支給見込額に基づき計上しており
		ます。
(4) 退職給付引当金	従業員の退職給付に備えるため、当事	左記に同じ
	業年度末における退職給付債務及び年金	
	資産の見込額に基づき計上しておりま	
	す。	
	なお、会計基準変更時差異(672百万	
	円)については、15年による按分額を費	
	用処理しております。	
	数理計算上の差異については、各事業	
	年度の発生時における従業員の平均残存	
	勤務期間内の一定の年数(14年)による	
	定額法により按分した額をそれぞれ発生	
	の翌事業年度から費用処理することとし	
	ております。	
(5)役員退職慰労引当金	役員の退職慰労金の支給に備えるた	左記に同じ
	め、内規に基づく期末要支給額を計上し	
	ております。	
6.キャッシュ・フロー計算	手許現金、要求払預金及び取得日から	左記に同じ
書における資金の範囲	3か月以内に満期日の到来する流動性の	
	高い容易に換金可能であり、かつ価値の	
	変動について僅少なリスクしか負わない	
- W# 1/65 - A + L + 1 - 7	短期的な投資からなっております。	
7.消費税等の会計処理	消費税等の会計処理は税抜方式によっ	左記に同じ
	ております。	

前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日) 当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)

(役員賞与に関する会計基準)

当事業年度より、「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準第4号 平成17年11月29日)適用しております。これにより、営業利益、経常利益、税引前当期純利益はそれぞれ11,000千円減少しております。

(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準) 当事業年度より、「貸借対照表の純資産の部の表示に 関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計 基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。従来の資本の部の合計に相当する金額は2,893,332千円であります。

なお、財務諸表等規則の改正により、当事業年度における貸借対照表の純資産の部については、改正後の財務 諸表等規則により作成しております。

追加情報

前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)

当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)

(投資不動産)

従来、有形固定資産として計上していた不動産の一部について利用状況の見直しを行った結果、建物142,140千円(当期末取得価額158,339千円、減価償却累計額16,198千円)構築物21,603千円(当期末取得価額31,789千円、減価償却累計額10,186千円)、工具・器具及び備品328千円(当期末取得価額748千円、減価償却累計額419千円)及び土地49,254千円を「投資不動産」として区分することにしました。

なお、前期末の有形固定資産の「建物」、「構築物」 「工具・器具及び備品」及び「土地」に含まれる「投資 不動産」はそれぞれ149,269千円、25,825千円、482千円 49,254千円であります。

(法人事業税における外形標準課税部分の損益計算上の表示方法)

「地方税法等の一部を改正する法律」(平成15年法律第9号)が平成15年3月31日に交付され、平成17年1月1日以降に開始する事業年度より外形標準課税制度が導入されたことに伴い、当事業年度から「法人事業税における外形標準課税部分の損益計算書の表示について実務上の取扱い」(平成16年2月13日 企業会計基準委員会実務対応報告第12号)に従い法人事業税の付加価値割及び資本割については、販売費及び一般管理費に計上しております。

この結果、販売費及び一般管理費が8,031千円増加 し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益が8,031 千円減少しております。 (貸借対照表関係)

前事業年度 (平成17年12月31日)			当事業年度 (平成18年12月31日)
* 1 (1) 有形固定資産減価償却累計額		* 1 (1) 有形固定資産減価償却累計額	
	5,238,869千円			5,271,044千円
(2) 投資不動産の減価償却累計額		(2)	投資不動産の減価償却累計額	
	26,804			37,066
(3) 担保に供されている資産及び期ま	末簿価	(3)	担保に供されている資産及び	期末簿価
(工場財団)			(工場財団)	
建物	116,563千円		建物	111,979千円
機械及び装置	445,714		機械及び装置	572,491
土地	11,865	_	土地	11,865
計	574,143		計	696,336
(その他)	55 044 T III		(その他)	50 445T.
建物	55,844千円		建物	52,415千円
土地	12,564		土地	12,564
投資不動産	160,780	_	投資不動産	154,187
計	229,190		計	219,168
 (4) 担保目的		(4)	担保目的	
長期借入金	508,160千円	(4)	長期借入金	543,220千円
短期借入金	1,150,000		短期借入金	1,000,000
計	1,658,160	_	計	1,543,220
*2 会社が発行する株式の総数は普通		* 2	н	-
で、発行済株式総数は普通株式13,58		_		
す。				
* 3 自己株式		* 3		_
当社が保有する自己株式の数は、	普通株式16,560			
株であります。				
* 4 財務諸表等規則第32条第 1 項第10 ^년	号の債権であり	*4 [材務諸表等規則第32条第1項第	10号の債権であり
ます。		まる	す。	
*5 商法施行規則第124条第3号に規定	する純資産額は	* 5		-
746,695千円であります。				
*6 当期末日満期手形の会計処理につい	ハては、手形交	* 6 È	当期末日満期手形の会計処理に	ついては、手形交
換日をもって決済処理しております。			∃をもって決済処理しておりま	-
したがって、当期末日は金融機関の		I	したがって、当期末日は金融機	関の休業日に該当
するため、期末日満期手形が次のとる	おり含まれてお		るため、期末日満期手形が次の	とおり含まれてお
ります。			ます。	
受取手形	31,068千円		受取手形	17,757千円
支払手形	22,603	3	支払手形	26,329
		•		

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	1	当事業年度 (自 平成18年 1 月 1 日 至 平成18年12月31日)		
* 1 固定資産処分益の内訳は、次のと	こおりでありま	* 1 固定資産処分益の内訳は、次のとおりでありま		
す。		す。		
鋳型	515千円	鋳型	3,828千円	
計	515	機械装置	531	
		車両運搬具	34	
		計	4,395	
* 2 固定資産処分損の内訳は、次のとおりでありま		* 2 固定資産処分損の内訳は、次のとおりでありま		
ं चं.		す。		
建物	221千円	建物	218千円	
構築物	14	構築物	249	
機械及び装置	10,432	機械及び装置	4,846	
車両及び運搬具	178	車両及び運搬具	572	
工具・器具及び備品	263	工具・器具及び備品	1,137	
計	11,110	計	7,024	

(株主資本等変動計算書関係)

当事業年度(自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)

1 . 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式 数(株)	当事業年度増加株 式数(株)	当事業年度減少株 式数(株)	当事業年度末株式 数(株)
発行済株式				
普通株式	13,580,000	-	-	13,580,000
合計	13,580,000	-	-	13,580,000
自己株式				
普通株式	16,560	3,445	-	20,005
合計	16,560	3,445	-	20,005

- (注) 普通株式の自己株式の株式数の増加3,445株は、単元未満株式の買取による増加であります。
- 2.新株予約権及び自己新株予約権に関する事項該当事項はありません。
- 3.配当に関する事項
 - (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成18年3月30日 定時株主総会	普通株式	40,690	3.0	平成17年12月31日	平成18年3月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成19年3月29日 定時株主総会	普通株式	67,799	利益剰余金	5.0	平成18年12月31日	平成19年3月30日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)		当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	
現金及び現金同等物の期末残高と貸借対	照表に記載さ	現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照る	長に記載され
れている科目の金額との関係		ている科目の金額との関係	
現金及び預金勘定	518,092千円	現金及び預金勘定	880,308千円
預入期間が3か月を超える定期預金	157,098	預入期間が3か月を超える定期預金	157,098
現金及び現金同等物	360,994	現金及び現金同等物	723,210

(有価証券関係)

前事業年度(平成17年12月31日現在)

1.その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの	株式	746,562	1,995,431	1,248,868
貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの	株式	550	546	4
合計		747,113	1,995,977	1,248,863

2. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	貸借対照表計上額(千円)	
子会社株式	15,000	
その他有価証券		
非上場株式	105,464	
計	120,464	

当事業年度(平成18年12月31日現在)

1 . その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの	株式	727,285	1,758,225	1,030,939
貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの	株式	23,670	21,221	2,449
合計		750,956	1,779,447	1,028,490

2. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	貸借対照表計上額(千円)	
子会社株式	15,000	
その他有価証券		
非上場株式	100,464	
計	115,464	

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日) 該当事項はありません。

当事業年度(自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日) 該当事項はありません。

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

退職金制度の30%相当額について、適格退職年金制度を採用し残額については、退職一時金を充当して おります。

2. 退職給付債務に関する事項

(千円)

	前事業年度	当事業年度
退職給付債務	600,875	547,300
年金資産	62,947	60,411
未積立退職給付債務(+)	537,928	486,888
会計基準変更時差異の未処理額	448,413	403,570
未認識数理計算上の差異	11,406	10,665
未認識過去勤務債務	-	-
貸借対照表計上額純額(+ + +)	78,109	72,653
前払年金費用	25,529	26,471
退職給付引当金(-)	103,638	99,124

3.退職給付費用に関する事項

(千円)

	前事業年度	当事業年度
勤務費用	30,816	30,425
利息費用	14,478	13,820
期待運用収益	565	629
会計基準変更時差異の費用処理額	44,841	44,841
数理計算上の差異の費用処理額	880	847
過去勤務債務の費用処理額	-	-
退職給付費用(+ + + + +)	88,690	89,304

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前事業年度	当事業年度
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
割引率	2.3%	同左
期待運用収益率	1.0%	同左
過去勤務債務の額の処理年数	-	同左
数理計算上の差異の処理年数	14年(発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。)	同左
会計基準変更時差異の処理年数	15年	同左

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成17年12月31日)		当事業年度 (平成18年12月31日)	
1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別		1.繰延税金資産及び繰延税金負債の	の発生の主な原因別
の内訳		の内訳	
(繰延税金資産)		(繰延税金資産)	
退職給付引当金	29,642千円	退職給付引当金	29,213千円
役員退職慰労引当金	14,390	役員退職慰労引当金	15,973
投資有価証券評価損	21,977	投資有価証券評価損	21,977
賞与引当金	12,063	賞与引当金	13,671
その他	41,466	その他	44,614
合 計	119,538	合 計	125,449
評価性引当額	64,413	評価性引当額	66,221
繰延税金資産合計	55,124	繰延税金資産合計	59,228
 (繰延税金負債)	_	(繰延税金負債)	
その他有価証券評価差額金	502,168千円	その他有価証券評価差額金	413,555千円
繰延税金負債合計	502,168	繰延税金負債合計	413,555
繰延税金負債純額 	447,044	繰延税金負債純額	354,327
2 . 法定実効税率と税効果会計適用後の率との差異となった主な項目別の内部 法定実効税率		2 . 法定実効税率と税効果会計適用後率との差異となった主な項目別の内法定実効税率と税効果会計適用率との間の差異が法定実効税率のため注記を省略しております。	内訳 後の法人税等の負担
(調整)			
交際費等永久に損金に算入されな い項目	0.8		
受取配当金等永久に益金に算入さ れない項目	0.8		
住民税均等割	0.9		
未認識将来減算一時差異等	14.4		
繰越欠損金の当期控除額	15.6		
その他	1.3		
税効果会計適用後の法人税等の負 担率	9.8		
_			

(持分法損益等)

前事業年度(自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日) 該当事項はありません。

当事業年度(自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日) 該当事項はありません。

【関連当事者との取引】

前事業年度(自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日) 該当事項はありません。

当事業年度(自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日) 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)
1株当たり純資産額(円)	204.14	213.37
1株当たり当期純利益(円)	20.56	21.98
潜在株式調整後1株当たり当期純利 益	潜在株式がないため記載しておりま せん。	潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	当事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)
当期純利益 (千円)	278,916	298,054
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	278,916	298,054
普通株式の期中平均株式数(株)	13,564,379	13,561,767

(重要な後発事象)

前事業年度(自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日) 該当事項はありません。

当事業年度(自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日) 該当事項はありません。

【附属明細表】 【有価証券明細表】 【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
	オークマ株式会社	477,710.00	628,666	
		株式会社広島銀行	409,923.00	280,387
		三井造船株式会社	312,000.00	123,864
		広島ガス株式会社	230,000.00	85,100
		株式会社西日本シティ銀行	144,391.00	75,083
		東芝機械株式会社	121,000.00	134,794
		株式会社 F & A アクアホールディ ングス	81,000.00	85,050
		三菱重工業株式会社	80,000.00	41,280
		株式会社ユーシン	77,000.00	56,903
		タカラスタンダード株式会社	75,962.53	52,945
	投資有価証 その他有価 券 証券	キョーエイ産業株式会社	64,000.00	14,336
		株式会社山口フィナンシャルグル ープ	42,753.00	53,141
		株式会社百十四銀行	25,357.00	18,459
		株式会社フジ	24,840.00	46,674
		東洋証券株式会社	15,975.00	7,747
		株式会社中電工	14,638.00	26,392
		三井トラスト・ホールディングス 株式会社	5,676.00	7,395
		株式会社三菱UFJフィナンシャ ルグループ	14.87	22,012
		株式会社山口フィナンシャルグル ープ(優先株)	100.00	100,000
		その他11銘柄	12,445.48	19,676
		計	2,214,785.88	1,879,911

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高(千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高(千円)
有形固定資産							
建物	1,098,950	2,150	2,665	1,098,434	858,207	15,689	240,227
構築物	184,651	10,869	681	194,838	162,456	2,404	32,382
機械及び装置	3,806,944	251,799	87,173	3,971,570	3,278,451	110,127	693,119
車両及び運搬具	111,446	10,338	11,313	110,471	86,991	8,128	23,479
工具・器具及び備品	971,749	31,505	30,936	972,319	884,938	21,058	87,380
土地	360,117	-	10	360,107	-	-	360,107
建設仮勘定	10,619	191,483	201,957	145	-	-	145
有形固定資産計	6,544,478	498,146	334,737	6,707,887	5,271,044	157,408	1,436,842
無形固定資産							
ソフトウェア	3,544	14,979	-	18,523	2,673	1,638	15,850
施設利用権	1,700	-	-	1,700	1,052	112	647
電話加入権	1,243	-	-	1,243	-	-	1,243
無形固定資産計	6,488	14,979	-	21,467	3,725	1,751	17,742
投資その他の資産							
投資不動産	240,132	380	-	240,512	37,066	10,262	203,445
投資その他の資産計	240,132	380	-	240,512	37,066	10,262	203,445

(注) 当期増加額のうち主なものは、次の通りであります。

機械及び装置 鋳造工場 50 t 天井クレーン 62,670千円 " 造機工場 PL10 N C 化改造工事 44,546千円 " 鋳造工場 中子乾燥炉改造工事 43,140千円 " 吉田ホーロー 焼成 2 号炉釉薬回収装置 9,903千円

当期減少額のうち主なものは、次の通りであります。

機械及び装置鋳造工場中子造型ライン65,380千円" 造機工場カッター研磨機8,533千円" " PL10ミーリングユニット4,450千円

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,150,000	1,000,000	1.61	-
1年以内に返済予定の長期借入金	110,740	86,040	1.46	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	397,420	457,180	1.42	平成20年1月~ 平成22年10月
その他の有利子負債	-	-	-	-
合計	1,658,160	1,543,220	-	-

- (注)1.「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。
 - 2.長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額の総額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4 年超 5 年以内
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
長期借入金	388,040	41,840	27,300	-

【引当金明細表】

	区分	前期末残高(千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
冷 /// // / / / / / / / / / / / / / / / /	流動資産	7,000	7,000	638	6,362	7,000
貸倒引当金	投資その他の資産	28,208	-	-	-	28,208
賞与引当金		30,000	34,000	30,000	-	34,000
役員賞与引当:	金 金	-	11,000	-	-	11,000
役員退職慰労	引当金	35,787	3,937	-	-	39,725

⁽注)貸倒引当金(流動資産)の当期減少額「その他」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

(イ)現金及び預金

区分	金額 (千円)
現金	2,788
預金	
当座預金	695,519
普通預金	4,901
通知預金	20,000
定期預金	157,098
小計	877,519
合計	880,308

(口)受取手形

(a)相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
日立造船ディーゼルアンドエンジニアリング(株)	129,658
安田工業(株)	50,872
㈱川本第一製作所	30,660
(株)ジーネット	21,544
(株)マキタ	21,330
その他	252,330
計	506,396

(b)期日別内訳

区分	平成19年1月	2月	3月	4月	5月	6月以降	計
受取手形(千円)	95,714	70,872	91,584	225,137	14,928	8,159	506,396

(八)売掛金

(a)相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
タカラスタンダード(株)	283,999
オークマ(株)	219,810
三井造船(株)	158,901
新日鉄エンジニアリング(株)	41,212
東芝機械㈱	34,119
その他	432,554
計	1,170,598

(b) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(月)
(A)	(B)	(C)	(D)	(C) (A) + (B) ×100	(A) + (D) : (B) 2 : 12
1,359,519	6,493,132	6,682,053	1,170,598	85.1	2.3

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記当期発生高には消費税等は含まれております。

(二)商品

品種	数量(個)	金額 (千円)
住宅関連機器	12,075	54,565
計	-	54,565

(ホ)製品

品種	数量(屯)	金額 (千円)
産業機械関連機器	978	176,493
住宅関連機器	497	173,672
計	-	350,166

(へ)原材料

品種	数量(屯)	金額(千円)
鋳物用鉄原料	1,344	51,775
鋳物用補助材料		7,532
ホーロー釉薬		7,375
その他		8,982
計	-	75,666

(ト)仕掛品

品種	金額(千円)
産業機械関連機器加工	21,058
各種工作機械周辺機器	83,514
鋳物製品造型費用	12,075
計	116,647

(チ)貯蔵品

品種	金額(千円)
鋳物材料	30,838
ホーロー材料	19,715
消耗品	23,009
その他	256
計	73,820

負債の部

(イ)支払手形

(a)相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
草野産業(株)	84,061
大銑産業(株)	44,262
大和燃料(株)	43,004
㈱日立ハウステック西日本	33,723
山川産業(株)	33,664
その他	704,828
計	943,544

(b) 期日別内訳

区分	平成19年1月	2月	3月	4月	5月	6月以降	計
支払手形(千円)	226,410	232,141	197,647	221,357	65,987	-	943,544

(口)買掛金

相手先	金額 (千円)	
㈱奎成	20,637	
(有)繁本組	15,732	
タカラスタンダード(株)	14,360	
草野産業㈱	11,727	
大和燃料(株)	10,209	
その他	225,432	
計	298,100	

(八)繰延税金負債

発生原因	金額(千円)
その他有価証券評価差額金	413,555
退職給付引当金	29,213
計	384,342

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
株券の種類	1,000株未満の株数を表示する株券 1,000株券 10,000株券
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1 単元の株式数	1,000株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都杉並区和泉二丁目 8 番 4 号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社
取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	株券の分割、喪失及び汚損又は毀損により株券を交付する場合、株券の 印紙税相当額
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都杉並区和泉二丁目 8 番 4 号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社
取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
買取手数料	証券取引所の定める1単元当たりの売買手数料相当額を、買取った単元 未満株式の数で按分した額
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	なし

(単元未満株主の権利)

平成19年3月29日開催の定時株主総会において、定款の一部変更が行われ、単元未満株主の権利 に以下の制限を設けました。

当会社の単元未満株式を有する株主(実質株主を含む)は、その有する単元未満株式について、次に揚げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に揚げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当を受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】 当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から本有価証券報告書提出日までの間において、中国財務局長に提出した証券取引法第25条第 1項各号に掲げる書類は、次のとおりであります。

1.有価証券報告書及び 事業年度 自 平成17年1月1日 平成18年3月31日

その添付書類 (第122期) 至 平成17年12月31日

2. 半期報告書 (第123期中) 自 平成18年1月1日 平成18年9月29日

至 平成18年6月30日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当する事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成18年3月30日

大和重工株式会社

取締役会 御中

西日本監査法人

代表社員 公認会計士 赤羽 克秀 業務執行社員

代表社員 業務執行社員 公認会計士 山本 準治

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大和重工株式会社の平成17年1月1日から平成17年12月31日までの第122期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、利益処分計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和重工株式会社の平成17年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成19年3月29日

大和重工株式会社

取締役会 御中

西日本監査法人

代表社員 公認会計士 赤羽 克秀 業務執行社員

代表社員 業務執行社員 公認会計士 山本 準治

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大和重工株式会社の平成18年1月1日から平成18年12月31日までの第123期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和重工株式会社の平成18年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

会計方針の変更に記載のとおり、会社は当事業年度から「役員賞与に関する会計基準」を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。